

古民家の野外博物館

日本民家園だより

平成2年度第4号
《通号第23号》
発行 3.2.1

川崎市立日本民家園

川崎市多摩区枳形7-1-1
電話 (044)922-2180~1
印刷 (株) エイシン

秘境の合掌造り、旧山田家住宅

- 旧山田家住宅
- 切妻造り茅葺き（合掌造り）
- 平入り
- 平面積 141.48㎡
- 旧所在地 富山県東砺波郡
上平村桂84番地
- 昭和43年8月 山田善治氏より
川崎市に寄贈
- 昭和43年10月 解体工事着手
- 昭和59年11月 復原・材料調査
に着手
- 昭和61年3月 移築復原完了



旧山田家住宅

◆ 白川系の特徴をもつ合掌造り

秘境といわれる越中五箇山、その白川郷よりの西赤尾というところから庄川の支流・境川に沿って山道を入ること約2時間半、忽然と視界がひらけて、田んぼとその奥に解体時点で5戸の合掌造り住宅の集落がありました。五箇山の人々でも、ほとんど訪れることはなかったといわれる「桂」、そこが旧山田家住宅の旧所在地です。まさに、秘境というにふさわしいところでした。（現在は富山県営多目的境川ダムの工事が進んでおり、桂集落は消滅しています。）

桂集落は行政区分からいえば富山県（越中）に属していましたが、集落の脇を流れる境川が岐阜県（飛騨）との境であり、一番近い集落が約1kmの山道で結ばれていた飛騨加須良カスラであったことから、飛騨との往来の方が盛んだったようです。この飛騨との交流は建物の様式にも影

響を与え、旧山田家住宅も平入り、切妻屋根、「しゃし」と呼ばれる小部屋コムの存在など越中にながら飛騨白川系特有の様式をもつ合掌造りとなっています。

構造は典型的な合掌造りの構造ですが、目をひくところは床が高いことです。これは加賀藩の賦課であった煙硝を床下でつくっていたためだと考えられています。また、寝室として使われた「ちょうだ」の入口に帳台構えがあることは、この家の古さを示しています。木材の仕上げがチョーナとヨキはつりの併用であり、台鉋トキを使っていないことなど様々な要素を検討した結果、建築年代は17世紀後半と推定しました。

◆ みどころ

- シンプルな外観
- 立派な仏壇
- 広い床下
- 床板を張った「うすなわ」など

あなたも参加してみませんか！

寒い季節となりましたが、民家園では下記のような催し物を用意して皆様のお越しをお待ちしております。お申し込み、お問い合わせは、電話044(922)2181でお受けしています。

◆民具づくり教室

—草木染め—

マリーゴールドの花、ドングリの実、みかんの葉を染料に、木綿や絹のハンカチなどを染めます。

○日時 2月24日(日)午前10時
より午後3時まで

○教材費 お1人につき1000円

○お申し込み 1月27日(日)
午前9時より電話で先着
20名様まで



◆体験学習

—草ダンゴ作り—

お湯でこねた上新粉によもぎを加えてウスでつき、それを丸めてセイロで蒸し上げます。

○日時 3月10日(日)午前10時
より午後3時まで

○教材費 お1人につき300円

○お申し込み 2月24日(日)
午前9時より電話で先着
25名様まで

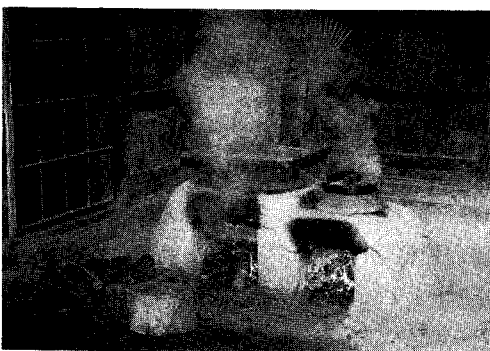
展示民具の紹介(2)

—カマド—

今ではほとんど姿を消してしまいましたが、以前はよく古い民家の土間で立派なカマドを見かけたものでした。カマドは俗に、「ヘツイ」（主に東日本）とか「クド」（主に西日本）とか呼ばれていましたが、

火を中心に生活が営まれていた時代にあっては、イロリとともに家の中心を成す存在でした。そのためでしょうか、地域によっては、カマド自身が家そのものを表わす言葉として使われていました。例えば、「カマドを分ける」ということが「分家を出す」という意味であったり、「カマドを破る」ということが「身代をつぶす」という意味だったのです。

カマドは家族の生活を支える場であったため、自然と神聖視され、カマドの神を祀る信仰も生まれ



火の入ったカマド(旧作田家住宅)

年中行事展示

下記の年中行事を、旧北村家住宅と蚕影山祠堂に於て月毎に展示します。

- <2月> 節分 イワシの頭を飾る
八日僧 魔除けの籠を飾る
<3月> 雛祭り ひな人形を飾る
蚕影山祭り 蚕の神を祀る

呼んでいるところが多いようです。園内でも、旧広瀬家住宅、旧北村家住宅、旧伊藤家住宅にはコウジンサマが祀られています。昔は月に一度、或いは年に一度、コウジンサマの日が決められており、その土地の習慣にしたがった様々な行事が行われていました。しかし、カマドがほとんど姿を消した今、コウジンサマを祀る習慣もだんだん消えていこうとしています。

民家園では、各種の行事の折にしばしば古民家内のカマドを利用しています。機会があれば、生きたカマドをご覧になりいらっしやいませんか。

園の動き

◆ 「文化の日」、無料開園実施<11/3>

併せて実施された自由参加行事「ワラで民具を作ろう」にも多くの方が立ち寄られ、当日の入園者は1700名にのぼりました。

◆ 平成2年度第2回民家園協議会開催<11/27>

◆ 民具づくり教室 「しめ縄作り」開催

<11/25, 12/2, 9>

今年度は3日間にわたる講座となりまして、第1日目にダイコンジメ、第2日目に輪飾り、第3日目にミニ門松を作っていただきました。大変な人気で、申し込み当日は約1時間で定員に達してしまいました。やはり手作りのお飾りはいいですね。

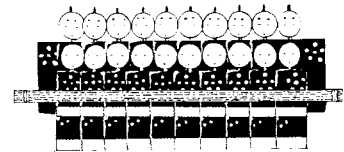
◆ 体験学習 「小正月のマユダンゴ作り」 <1/13>開催



さあ、ダイコンジメに挑戦だ

ひな人形とひな祭り

3月3日の雛祭は、古くは上巳の節句しょうしといい、江戸時代には五節句の一つに数えられ、重要な節日とされていました。しかし、それ以前から既に、3月3日又は3月上巳みづみ(最初の巳の日)に、厄除けはらいの祓はらいの行事を行う風習がありました。この「巳の日の祓」は、季節ひとの変わり目に当たる節句に、自身のあらゆる災厄を祓う目的で、人形かたで体を撫でて災厄を移し、その人形を川や海に流すものです。現在も行われている流し雛の習俗はこの名残です。この日にはこの他にも、



鳥取の流し雛

こくせい えん とりあわせ
曲水の宴や闘鶏とりあわせを行い、草餅や桃花酒を神に供える習慣がありました。この祓の人形は、目下の者から目上の者へ贈られる風習があり、その為に次第に装飾的な物へと変化していきました。又、この他に玩具としての雛も既に存在しており、『源氏物語』や『枕草子』などにも「ひいな遊び」として記されています。この「ひいな」という言葉は、「雛」の古語で「小さくてかわいいもの」という意味であったようです。やがて祓の人形と、この雛とが次第に複合化されて、雛人形が誕生したといわれています。この様な経緯を経て、今日の様な雛祭が始まったのは江戸時代のことです。しかし、江戸時代初期の雛飾りは、毛氈などの上に紙雛(立雛)と坐り姿の内裏雛だけを並べ、白酒や草餅を供えた簡素なものでした。現在の様に女兒の節句とされ、又雛飾りも段飾りとなって、内裏雛だけでなくその他の人形や様々な調度などが並べられるようになったのは江戸時代中頃になってからです。そして時代が進むにつれて各地



紙雛(立雛)

に雛市が立ち、様々に趣向を凝らした豪華な雛人形が製作され、大名家などでは等身大の内裏雛が飾られるほどでした。その為、幕府は雛人形の衣装や調度に金銀箔を用いたり、大型の人形を作ったりすることを禁じる触書を度々出し、雛祭が華美になるのを抑えようとしてきました。しかし、町人文化に根付いた雛祭は、より華やかに発達し、後世に受け継がれて来ました。この様に、長い時代を経て私達に伝えられて来た雛祭—お雛様ですが、世の中の移り変わりにつれ、その持つ意味もまた徐々に変わっていくかも知れません。

日本民家園 見どころ紹介 — その1 —

現在、日本民家園には、全国各地から寄贈していただいた23軒の古民家が展示されています。そのつくりには、それぞれの地方の自然環境やそこに住む人々の生活慣習が反映されており、一口に民家と言っても外観や間取りは千差万別で、実に様々なつくりが存在するのです。建物の随所に見られる工夫・特徴からは、当時の人々の「住」に対する心遣いが偲ばれ、見る者を飽きさせません。このような生活の知恵が凝縮された古民家のすばらしい魅力をできるだけ多くの方に、とりわけ若い世代の方々に知っていただきたいと私も考えています。そこで、これから当園に展示されている古民家の見どころを色々な視点からいくつか御紹介して行きたいと思えます。遠足や見学実習などの際の参考にしていただけましたら幸いです。今回は、その触りとして屋根について少しお話ししましょう。

◆屋根のいろいろ 当園の入口からまず右手に進み、合掌づくり民家が立ち並ぶ「信越の村」を抜けて行きますと「宿場の村」に着きます。順路の途中で宿場の村全体を見渡せる所があり、3種類の代表的な古民家の屋根—茅葺き・板葺き・瓦葺き—を一度に見ることができます。屋根の仕組みの違いを是非見比べてみて下さい。

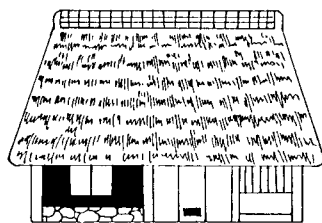
茅葺き屋根は、最近少なくなったとはいえ、まだ全国各地で見ることができます。毎日の様に囲炉裏で火を焚き、その煙で茅を燻蒸しないと虫やカビ・苔などですぐ傷んでしまい維持が大変ですが、手入れさえ良ければ30~40年は葺き替えの必要がないと言われています。この寿命の長さと茅を昔は容易に入手できたことが、広く普及した理由の一つと言えるでしょう。

板葺き屋根は、鉋割りした短冊形の板を細かく重ねてあります。釘は使わず、代わりに横に渡した

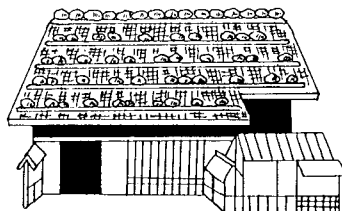
小さな丸太で上から押さえ、さらに丸太の上に河原石で重しがしてあります。その簡単な構造から専門の職人でなくとも修理は容易で、表面の傷んだ板を上下逆さにしたり、表裏反転して再利用するため、一回葺くと10数年は保つと言われています。

瓦葺き屋根は、ひなびた古民家のイメージには少しそぐわないかもしれませんが、けれども瓦葺きは茅葺きや板葺きに較べ火事に強く、美観に勝るといふ利点があります。近畿地方など西日本では、江戸時代中期以降町家を中心として瓦葺きが普及していきました。後に火事の多かった江戸でも増えていくようになりました。

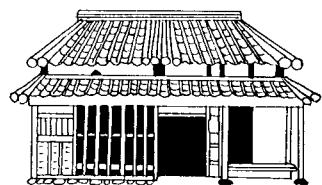
当園の展示民家は、茅葺き屋根が多いのですが、建物によって形が随分異なります。勾配が急なもの、窓が付いているもの、軒がとても低いもの。その違いの理由は……御来園いただき実際に見ていただくまでのお楽しみとしておきましょう。



茅葺き屋根



板葺き屋根



瓦葺き屋根

編集後記

今年の冬はずいぶんと暖かく、民家園でも12月中旬には早々ふきのとうが顔を覗かせていました。でも、こここのころの冷えこみで、また土の中へひっこんでしまったようです。

もうすぐ本当の春がやって来ます。梅の頃の民家園もまた風情があります。どうぞ皆さんでお越し下さい。(S)